

四国放送

活動名	四国放送アナウンサーお話し会「言葉っておもっしょいゾウ１１」
実施期間	令和７年１０月～１２月
実施回数	会場５回

【事業実施の成果・課題】

毎年、小学校を回っているが、好評を得ている。

アナウンサーが学校に行き、子どもたちの目の前で絵本を読む。最近にないオフラインの活動でアナウンサーも真剣に取り組んでいて、仕事の励みにもなっていると感じている。

ただ、勤務の都合などで遠隔地の学校に行けていないのは残念。

出版社への申請も必要になり準備が煩雑になった。プロジェクターで投影したい旨お伝えしたところ、許可をいただけなかったことがあった。「プロジェクターに投影して見せて絵本の良さが伝わるのでしょうか？絵本の面白さは伝わるのでしょうか？」とご意見をいただいた。

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

- ・低学年の児童に向けた「とくしまからきました」の読み聞かせでは、改めて住んでいる「徳島」に興味を示していて、読み聞かせをしても次々と「ここ知ってる～」という言葉が飛び交っていて嬉しく思いました。言葉や読み聞かせを通じて言葉や絵本の世界を楽しんでくれていたら嬉しいです。
- ・今回は、「とくしまからきました」という地域の魅力を詰め込んだ絵本を楽しめたことが良かったと思いました。目を引くカラーの阿波踊りや徳島ラーメンなどを見ながら「これ知ってる？」「食べたことある？」などキャッチボールができました。絵を楽しむ絵本ならではの良さを、感じてもらえていたら嬉しいです。
- ・なかなか触れ合うことのない、小学校低学年の子どもたちの前で、読み聞かせを行ったのは、貴重な経験となりました。キラキラした表情で真剣に聞いてくれたのが嬉しく思いました。
- ・読み聞かせという事業は、私の中で特別感があり、ご褒美のようなお仕事。子どもたちの目の前で言葉を届ける機会はとても新鮮で、今回も大きな学びがありました。それは、「言葉の伝え方」。読み聞かせの最中、子どもたちは驚くほど素直！面白いキャラクターが登場すると「なんじゃこりゃ！」と大笑いしたり、主人公の問いかけに元気に返事をしてくれたり…そんな姿を見ていると私自身も、耳にすっと入りやすいように、と自然と工夫していました。声色を変えたり、強弱をつけたり、場面転換では思い切って大きく間を取ったりなど。こうした工夫は、ナレーションや普段のMCなどにも通ずるもの。改めて、「言葉を届ける」ということを体で感じさせてもらいました。小学生とお話を

するときの「言葉選び」は、まだまだ改善の余地があります。難しい言葉を避けようとする、逆に言いよどんでしまったり、普段当たり前に使っている表現が正確に伝わっていなかったりする瞬間がありました。次回は、どんな言葉がわかりやすく届くのか、語彙や口調まで意識していきたいと思います。

- ・後日談として…読み聞かせで訪問した学校とのつながりが出来て、弊社夕方のワイド番組で数か月後、学校で飼育している孔雀を訪ねて 生中継を実施しました。生中継とまではいかななくても、絵本の読み聞かせは、局と学校をつなぐイベントとなっていると感じています。

【教諭・保育士・子どもたち・視聴者などの感想】

- ・ 楽しい時間をありがとうございました！プロの語りを目の前で聞くことができ、子どもたちも私（ご担当者）もとてもワクワクしていました。よい機会をくださり、ありがとうございました。帰宅して「フォーカス徳島」（当日の読み手担当者が出演している弊社のニュース番組）もバッチリ見ました！
- ・ 子どもたちも大変喜んでいて、次の日、「昨日家に帰ってゴジカル！（アナウンサーの出演番組）見たよ」と報告がありました。
- ・ 子どもたちのみならず、先生方も大変楽しんでくださった様子をメールで伝えてきてくださいました。